



熊谷東ロータリークラブ会報



会長：市川 富夫 副会長：藤澤 貞彦 会報情報委員長：野村 泰豪
幹事：浅井 純次 会長エレクト：浅井 純次

国際ロータリー会長：バリー・ラシン
第2570地区ガバナー：茂木 正

〒360-0024 熊谷市問屋町2-4-1 熊谷流通センター会館
TEL.048-525-3025 FAX.048-525-7011
office@kumagaya-east-rc.com
例会日：水曜日12時30分/月末は夕刻例会 18時30分

追悼号 名誉会員 大野百樹先生のご逝去を慎んで

平成31年3月19日

大野百樹先生を偲んで



3月2日の夕方、大野先生のご子息、雅志様からお電話だとのこと。一瞬悪い予感がしたが、やはり先生がお亡くなりになったとのことのお知らせであった。

すぐに、市川会長に連絡をとり、翌日家内と甲間に参上しました。先生は静かな、おだやかなお姿でお休みになっておられました。これまでの長い間のご厚情に心からお礼を申し上げるのみでした。

我が熊谷東ロータリークラブにとりましては、1986年（岩崎守次会長年度）より33年間もの長期にわたり、名誉会員として大きな心の支えであり続けて下さいました。

年2回の心に深く染み入る卓話や催し物の時のお話。また先生がいらっしゃればこそ、春は三越、秋は東京都美術館での「院展」に例会を変更しての美術（日本画）について理解を深める機会を持つことが出来ました。

また、クラブを越えたロータリーの催しでは、私のロータリー生活にあって、二度の大きな節目であった、2002年のIM（都市連合会）では「美の心」と題して美しい自然との向きあい方を、また、2006年の地区ガバナーとして主催した地区大会では、メインの講師として「心豊かに太陽はのぼる、あゝ生きてきて良かった」との演題で、ご自身の生い立ちから始めて先生の美を求める姿などにつき話されて、熊谷会館を埋めつくした多くの会員の心を打つ講演をいただいた。

ある会員が「大野さんのお話しは一緒に色彩が頭に浮かびます」と話してくれたことが印象に残りました。

この講演要旨は7月号の「ロータリーの友」の巻頭を飾ったことはご存知の通りです。

当クラブの周年行事の記念誌を飾った屏絵、13冊の「ガバナー月信」の表紙絵などお世話になった数々を挙げると、とても言いつくせません。

残念ですが、熊谷に在住された三人の巨星文化人も俳句の金子兜太先生、書の野口白汀先生に続いて、このたび日本画の大野百樹先生も世界され誠に残念です。いつも明るく、やさしい笑顔で私達会員に接して下さいました先生の面影は我々の心から消えることはありません。

大野先生ありがとうございました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

平成31年3月12日

2005～2006年度 2570地区ガバナー 野中弘之

卓話 「長寿の秘訣」

大野百樹名誉会員

長寿とは、長く生き 幸せな人生であること。

思えば 100 才以上の長命の人は、あまり多くなかった。ところが近年は熊谷市民にも沢山 100 才を越える方がいる。ここで大切なことは、その人々が幸せであるか。丈夫で社会人として、どのように生きておられるか。生きることに日々感謝の人生でありたい。己が人生を幸せに導く方法の 1 つに 先づ自然と仲良くすること。

それは日々変わりゆく自然の美しさを発見し、その中に自分自身を投げ込むことから始まる。

美しい自然は生きる活力を与えてくれる。身も心もすっきりの日々となる。私が青年の頃、東京美術学校（現芸大）の文庫（図書・資料）に勤務していた。当時は油絵を描いていて藤島武二先生に学んでいたが苦学の日々でした。

ある日、東洋美術史教授の鎌倉芳太郎先生に窓辺に呼ばれ真赤に紅葉したハゼの彼方を指差しながら「あの大らかで明るく温かい太陽の心」己が心にして生きることだと教えられた。曇り日でもその雲の上には太陽がある。

ある年、青森県の岩木山に旅した。4 合目の宿を夜中にそっと抜け出し、それも 2 時、スケッチの道具を用意していた。空は満天のうろこ雲。そして満月。月を描くなら夜の 2 時から 3 時の間。それは 2 時半が丑満つ時、月の 1 番美しい時間です。この月の夜空を 40 年ほど心にあたためて絵に描き院展文部科学大臣賞を受賞した。

私が日本美術院同人に推挙されたのは 80 才でした。それまでの最高年齢は 74 才。私が高年齢の記録をつくった。そしてこの記録を越える作家は出ないと思われている。それは高年になるにつれて作品は悪くなるのが常である。

私の同人推挙の祝いの席で先輩同人の方が「大野さんは、1 番悪い 1 番遠い道をゆっくり歩いて院展と言う山の頂上に登られた」と・・・またある同人は「大野さん・・・院展という山の頂上に登ってしまったら、これからは、さらに登る道はない。自分の登る道を作りながら登り続ける事だ」と教えてくれた。

思えば私が 40 才頃、熊谷市社会教育委員として市の成人式に参加した。その記念講演の幸田文さんが話の最後に「皆さん竹のように生きて下さい。ふしの多い竹ほど、たくましく生きる。節は風雪に耐えるたびに立派になり力強く生きられる。人生つらい時、悲しい時、立派なふし目となり一層力

強く生きられると話された。

では、最後に、誰でも、どこでも、いつでも出来る長寿の秘訣・・・それは人間の死が肛門が開くことにある。と、すれば肛門をしっかりしめ続けければ・・・これこそ長寿の秘訣です。

ではどうぞ・・・キュ・キュ・キュッ

話が下々になりました。この辺で終わりいたします。

皆様のご健勝、ご多幸をお祈りします。

ご静聴ありがとうございました。



再興第九十六回院展作品 「初冬」
内閣総理大臣賞（同人）大野百樹

